

====支部だより=====

関西支部第35回夏季大学報告

関西支部第35回夏季大学を、2013年8月31日（土）に、キャンパスプラザ京都第3講義室において、大阪管区気象台及び日本気象協会関西支社の後援で開催しました。

今回は「竜巻 ～理論・実験・観測～」をテーマとし、新野 宏氏（東京大学 大気海洋研究所）「竜巻－その構造・発生機構の理解と予知の現状について」、佐々浩司氏（高知大学 教育研究部）「竜巻の発生環境を理解する室内実験」、小司禎教氏（気象研究所 気象衛星・観測システム研究部）「竜巻の観測 ～メカニズム解明を目指して～」の3講義を実施しました。

第一講の新野氏の講義では、竜巻という大気現象に関して、基礎知識から最新の学術的知見までを体系的に学習しました。第二講の佐々氏の講義では、参加者全員が冷氣外出流模擬装置の周りに集まり、ドライアイスで可視化された気流をファンで吸い上げるによりミニ竜巻を作る実験に奮闘しました。第三講の小司氏の講義では、気象庁で行われている竜巻の監視・予測システムについての説明や、数値シミュレーションやドップラーレーダーによる竜巻の解明に向けた最

新の技術動向を聞くことができました。各講義とも、講師の皆様が分かりやすい説明を心がけて下さったこともあり、質疑応答も活発で、盛況のうちに終了することができました。

講義後のアンケートでは、参加者94名中86名から回答を得ることができました。参加者のうち、男性は87%、女性は13%で、学会の会員/非会員別では、会員が42%、非会員が58%となりました。年代別に見ると、20代から60代までの割合は13%から20%で、各世代から満遍なく参加がありました。また内容の難易度に関しては、3つの講義共に、7割以上の受講者が「適当」であると回答しており、また講義の難易度に関しても、「適当」と「わかりやすい」を合わせると全ての講義で7割を上回りました。自由形式で書いてもらった講義の感想についても好意的な内容が多く、大方満足のいく夏季大学を実施できたと考えております。

最後に、多大な協力を頂いた後援の機関、講演頂いた講師の皆様に厚くお礼申し上げます。

（関西支部）